

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0770301703		
法人名	医療法人社団 平成会		
事業所名	健康倶楽部郡山 グループホーム「希の家」 Bユニット		
所在地	福島県郡山市御前南二丁目65番地		
自己評価作成日	平成26年9月20日	評価結果市町村受理日	平成27年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成26年11月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・郡山市で初のグループホームとして10年以上になり、お客様の身体レベルにあったケアをご家族様の協力も頂きながら、また、職員も法人内の研修に参加して、認知症の理解や介護技術の向上を図り、お客様との日々の生活が楽しくなるように気持ちをもったケアに努めている。  
 ・中庭の花壇やプランターは園芸ボランティアの方とお客様も一緒にお話をしながら行っている。定期的にご家族様の協力によって、草刈をしていただいている。  
 ・季節に合わせた装飾や、イベントや行事・日常の様子を掲示することでお客様の笑顔と会話を引き出している。  
 ・お客様のお誕生会や年2回は家族交流会では、手作りの食事をお客様の要望に添ったものを提供しており、ご家族様にも喜んで頂いている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとは何かを考え、職員間で話し合い理念の作成をし掲示、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域から行事への参加を回覧等で声掛けて下さり、出来る限りお客様と参加している。地域の方への挨拶も積極的に行い、テラスの花植えなど地域の方がボランティアで来て下さり、お客様と花壇作りして下さっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ向けての広報誌発行と、毎月のブログ更新で認知症・当施設の理解に取り組んでいる。近くの小学校、中学校の実習受け入れも継続的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、日常の様子や地域でのイベント、当施設でのイベント参加を募ったりし、議事録にして職員へ回覧している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に市の相談員が来所され、お客様とゆっくり関わりを持って下さる。お客様の言葉や職員の動きなどにも意見を下さり協力関係が得られている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を行い理解を深め、職員間でお互いが指摘し合い拘束のないケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは身体的でなくとも言葉での虐待もあることなど勉強会行い、虐待のないケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	階層別研修や事業所の介護支援専門員の個別勉強会の内容の中で学ぶ機会を設けている。勉強会に参加できない職員には勉強会資料の配布をして学ぶようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前や入居時に契約書や重要事項説明書を通して、法人の方針やグループホームの指針の説明を十分に行い、理解・同意を得ている。又、ご家族様で不安や疑問点があるときには電話連絡や面会時に伺って対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様アンケートを行い当施設への意見や要望を調査して、結果を職員間で共有し改善に努めている。また、アンケート結果を掲示することでご家族様などにも見て頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常の申し送りやリーダーとの話し合いの場を設けて意見や要望を確認して、業務に反映している。必要時は法人の上司に報告・相談して対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は年2回は個人面談をし、業務目標の進捗状況や成果、個人の思いを把握している。勤務表作成時は希望休などを随時スタッフと話し合いを行っている。また、運営者は管理者と随時面接を行い、職員の状況把握を努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にて階層別研修を行い、参加することで知識技術の向上に努めている。また、グループホーム協議会の研修に参加できる機会を確保したいが人員の都合で行けてないので今後は進めていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	階層別研修会を通して、同業者との交流や情報交換ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者と介護支援専門員とで実態調査に出向き、ご家族様などから情報収集し暫定プランの作成、サービス提供に繋げている。お客様のお好きなように過ごせる環境作りを目指し、1対1での時間をもって何を望まれているのか信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的にご家族様への連絡をし状態報告している。面会時にも職員が間に入り近況報告したり、お客様の事だけでなくご家族様とお話も大事にしている。そこから話しやすい職員を目指し、ケアプラン作成時にはご家族様からの意見を反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お客様やご家族様からの意見を参考にし、ここでの生活に何を望まれどんな将来を望まれているのかを参考にカンファレンスで話し合いプラン作成に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはお願いし、一緒に掃除や洗濯などさせて頂いている。時間にとらわれず、一緒に食事作りをしたりゆっくり会話をしたり穏やかな時間になるよう努め、なじみのあるおかあさんとねえさんの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に受診の報告と共に近況報告し、2か月に1回のお便りでも状態コメントし情報の共有をしている。誕生会や家族交流会への参加呼びかけで一緒に過ごせる時間も作り関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも気兼ねなく面会できるような雰囲気作りを心掛けている。馴染みの方の面会ではお客様とゆっくり過ごせるよう環境作りしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うお客様同士の座席配置をしお客様同士のより良い関係作りに努めている。またお客様に合わせてレクリエーション提供しており、職員は仲介に入るなどして孤立しないような配慮もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、新しい施設へ訪問したり電話連絡したりとご家族様との連絡を取り、相談に応じることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様との1対1の時間を大事にし、コミュニケーションや表情やしぐさを通じてお客様の思いをくみ取っている。またカンファレンスにてお客様の希望についても話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から以前の生活環境や趣味など情報収集をし、カルテ記載を行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お客様のペースを最優先し、日々の申し送りやカルテを通して現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の日常の様子をアセスメントに落とし込み、ご家族様からの意見や要望もカンファレンスで話し合いケアプラン作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに添ったケアの実施、経過記録への記載や申し送りをし情報共有している。その中での気づきを日々の申し送りやカンファレンスで話し合い検討・見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様の体調の変化にはお互いに声を掛け合い、管理者やご家族様にも相談し、受診するなどして柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事へは積極的に参加できるよう支援している。訪問理美容もあるが、近所の床屋を利用するお客様もいらっしゃる。また月に一度は踊りや歌などのボランティア依頼し交流も図れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人様やご家族様の希望に添った病院にしており、定期的に病院受診をしている。かかりつけ医との密な連携にも努め、関係を築けるよう努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週看護師への連絡表を作成し、看護師出勤時には一緒にお客様の身体観察行い、コメントを頂いている。またお客様の状態変化についてのアドバイスをいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は医療機関やご家族様との連絡を多く取り、情報の共有を図っている。また面会へ行き、直接病院側との話をして情報交換や関係作りに努めて、早期退院に向けて準備も早めに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	お客様の今後についてご家族様と話し合い行い、医師や医療機関へも相談協力頂けるようにしている。ご本人様やご家族様が安心出来るようチームでの支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に法人内での勉強会行っているが、いざという時の為に急変時の対応が出来るよう進めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回併設しているDSとの防災訓練の他、毎月火災時や災害時の対応について防災訓練行っている。地域への協力求める為にもまず地域貢献していけるように運営推進会議にて呼び掛け、9月に訓練の様子を見て頂く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様であり、人生の先輩としての言葉遣いや態度には気をつけている。日常的に言葉かけやプライバシーに関して気になることは職員間で注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様がわかるような話し方や動作にてお伺い、自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様のペースや気分に合わせて臨機応変に業務を進めている。外に出たい希望あれば散歩に出たり、ほっといてほしいと希望あれば危険のないように見守りさせて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に化粧されたりするお客様もいらっしゃるためポーチの管理を行っている。誕生会などの主役の場では普段しなくても口紅を付けたり、普段着ではないおしゃれ着を着用したりと支援させて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事の準備や後片付けをお客様と一緒に、お客様と同じテーブルで会話しながら和やかな雰囲気の中で食事が出来るよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	DS栄養士に確認して頂きバランスも考えて食事提供している。お一人お一人の食事量や水分量もチェックし、状態に応じてご家族様にも相談し補食も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにて出来るところは行って頂き、確認と状態に応じて一部介助などしている。またお客様によって口腔内ウェットティッシュや洗浄液使用しケアしている。義歯洗浄剤は毎晩使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お客様の状態にて、トイレサインや排泄パターンをチェックし時間見ながら誘導している。また尿臭や便臭がした際はすぐに誘導し、清潔保持をさせて頂いている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お客様に合わせて個別での運動促したり乳製品を提供し便秘の予防に努めている。またお客様によって下剤の使用もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お客様に合わせての声掛けをし、気分や状態見ながら入浴して頂いている。入浴時はゆっくり1対1でお話したりと時間をもち、入浴剤や昔ながらのゆず湯やしょうぶ湯も取り入れている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の状態に合わせてお好きな時間に休息が取れるよう支援している。またお客様によっては、ご家族様の許可のもと夜間帯など和室使用し職員と関わり持ちながら自分のペースで休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師とのやり取りなど受診カルテに記載し全職員が目を通して変更なども理解している。処方内容が記載された用紙と内服薬の確認を行い、変更時は副作用などの記載を申し送り状態観察行うように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人に役割を持っていただき、花の水やりや食器拭きなどその方にあったものを支援している。各職員に合わせて広告仕分けを日課にしているお客様もいらっしゃる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の希望や外を眺めている様子が見られた際には少しでも外に出て気分転換できるよう職員間で協力している。普段行けないような場所へは希望叶えますツアーと一緒に楽しめる計画・実行をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物に出かけたり、お客様がご自分でお支払して頂き、お金の使用の機会を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様の希望時やご家族様からの電話があった際はご本人様と話せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて装飾飾りつけし、お客様に季節感が味わって頂けるよう配慮している。またトイレはお客様お一人お一人使用前後にチェックを行い、きれいな状態で使用できるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様の状態に合わせて、1人の時間が取れるよう周りの音や座席の配置に配慮している。気の合うお客様同士での席の配慮を行い、ソファにて思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	自宅で使用していた家具を持ち込み配置したり、ご家族様や前の施設での写真を置いたりしてご本人様の落ち着ける居室作りを目指している。職員でこまめに居室の掃除を行い、衣服の整理などを行い、タンス内などの環境整備にも努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できない」「やらない」の考えから「できるのでは」と考えを変え、安全に配慮しながら見守りして「できること」を安全にできるような工夫や話し合いをしている。		